

国の紹介



ガイアナ、正式名称ガイアナ協同共和国は、南アメリカ大陸北部に位置する主権国家です。北は大西洋に面し、南および南西はブラジル、東はスリナム、西はベネズエラと国境を接しています。しかし、他のアングロ・カリブ海諸国やカリブ共同体 (CARICOM) との文化的、歴史的、政治的な結びつきが強いため、カリブ海地域の一部と見なされることがよくあります。

面積 83,000 平方マイル(日本の国土の約 57%)のガイアナは、南米では唯一の英語を公用語とする国です。ガイアナという国名は、先住民の言葉で「豊かな水の地」を意味します。

ガイアナは、人口 746,955 人（2012 年国勢調査）の多民族国家です。主な経済活動は、農業、鉱業、林業、漁業です。2015 年の最初の発見以来、いくつかの重要な深海油田が見つかっており、これはガイアナの経済に大きな影響を与えるものです。

ガイアナの国土は、今でも 80% 以上が森林に覆われています。熱帯気候、独特の地質、比較的手つかずの生態系が、種の豊富な熱帯雨林や自然の生息地といった広大な地域を支えています。

近年、ガイアナ政府は、国の資源の持続可能な開発を推進するために、低炭素開発戦略のコンセプトを明らかにしました。このコンセプトは、気候変動に関する世界的な現状に対応するだけでなく、国の豊富な天然資源を活用する多角的な成長戦略の可能性も提供するものです。



©Expo 2025

CO-OPERATIVE REPUBLIC OF GUYANA PAVILION

ガイアナ館



イノベーションによる持続可能性
- ガイアナの低炭素化の旅

LCDS 2030 はガイアナに関して相互に関連する 4 つの目標を定めており、最初の 3 つは 2009 年以降の LCDS の基本目標、4 つ目は新たな地域および世界的な現実を反映するために追加されたものです。

- 生態系サービスの評価
- クリーンエネルギーへの投資と、低炭素成長の促進
- 気候変動と生物多様性喪失の防止
- グローバルな気候変動目標および生物多様性目標との整合

ガイアナは 215,000 平方キロメートルの広さがあり、海岸線は約 434 キロメートルにわたって延びています。国土の約 85% は森林に覆われており、その総面積は 1,850 万ヘクタール、森林破壊率は 2012 年現在、1% 未満を維持しています。これらの森林には、熱帯雨林 (36%)、山地森林 (35%)、沼地および湿地 (15%)、乾燥常緑樹林 (7%)、季節林 (6%)、マングローブ林 (1%) が含まれます。ガイアナの生物多様性はほとんど損なわれていませんが、まだ十分な調査が行われていないため、世界で最も森林が豊富な国の一つであるガイアナは、保全と研究の大きな可能性を秘めていると言えます。

展示コンセプト

ガイアナ館では、持続可能な観光の主要な目的地としての国の姿を紹介するとともに、持続可能で包摂的な発展への道筋として、投資機会をご案内します。ガイアナ館は、パートナーシップの力、カーボンクレジットによる新たな資金調達方法、ビッグデータの活用、研究などの従来の技術を活用しながら、循環型経済と社会的包摂を促進することで、「いのちをつなぐ」モデルを探求しています。「いのちをつなぐ」というサブテーマは、ガイアナの拡大低炭素開発戦略に大きく関わるものであり、このサブテーマの活動は、持続可能な開発目標とメインテーマに関連する目的を達成するために、更に細分化されました。ガイアナ館では、ガイアナ初のスマート都市「シリカシティ」の発展も紹介します。この新都市は、コンパクトで、歩行者優先、エネルギー効率が高く、相互に連携し、持続可能で、快適で、魅力的かつ安全な都市として開発されています。増大する気候変動リスクに対処することを目的に設計されており、高密度で強固な新都心を形成することで、暮らしを統合し向上させる大きな可能性を秘めています。

ます。また、ガイアナ館では、ガイアナの持続可能な開発モデルを研究とイノベーションを通じて紹介します。これは、熱帯雨林の保全、環境調和、経済的活用、生物多様性と多文化社会の共存を促進し、持続可能な社会を目指すものです。

LCD

新しい「低炭素開発戦略 2030」は、世界の生態系サービスに価値を置くインセンティブを確立し、持続可能性を中核とする新たな世界開発モデルの不可欠な要素としてこれを推進することにより、ガイアナに新たな低炭素経済を創出します。

LCDS 2030 の主な目標：

1. 低炭素経済に向けた新たなインセンティブの創出
2. 気候変動と生物多様性喪失の防止
3. 将来の成長促進：クリーンエネルギーと低炭素開発
4. グローバルな気候変動目標および生物多様性目標との整合

イウォクラマ

イウォクラマ国際熱帯雨林保全開発センター (Iwokrama) は、ガイアナとイギリス連邦によって設立された非営利自治団体です。ガイアナ政府と国民が約 360,000 ヘクタール (約 100 万エーカー) の自然のままの熱帯雨林を国際社会に委ねることで、熱帯雨林をいかにして保全するか、そして地域、国家、国際社会にとっての生態学的、社会的、経済的利益をいかにしてもたらすかを示すことが、イウォクラマの目的です。



シリカシティ

ガイアナの先見的な開発都市であるシリカシティは、持続可能な生活と革新的なインフラを取り入れて設計された同国初のスマートシティです。ソーズダイク・リンデン・ハイウェイ沿いに位置し、ジョージタウンの都市部の混雑を解消しつつ、経済成長と環境管理を推進します。この都市は、再生可能エネルギー、グリーンビルディングの実践、スマートテクノロジーを活用して、現代的で環境に優しいコミュニティを構築します。これは、ガイアナの気候問題への取り組みを表すもので、住民と企業に機会を提供するものでもあります。イノベーションと持続可能性を融合することで、シリカシティは同国の都市開発の新しい基準を確立することを目指しています。



アマイラ滝

ガイアナ水力発電プロジェクトは、長期的なエネルギーコストと石油輸入への依存を減らしながら、ガイアナの二酸化炭素排出量を削減することを目指しています。このプロジェクトでは、ガイアナ中西部のアマイラ川とクリブロン川の合流地点に水力発電所を建設します。発電された電力は送電線を通じてジョージタウンとリンデンに送られ、これらの大都市圏にクリーンで信頼性の高い電力が供給されます。このプロジェクトは、ガイアナが持続可能なエネルギーと経済の安定を推進する上で大変重要なものです。

